

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第三號

第二卷

論說

●在外正貨處分ニ就テ

法學博士 小川郷太郎

●穀物定期取引論

助教授 河田 嗣郎

●戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(二完)

講師 米田庄太郎

研究

●職工ノ災害扶助制度(工場法第十五條ノ施行)

法學博士 戸田 海市

●家中工業ニ就テ

同志社大學教授 瀧本 誠一

●本邦出生率増加ノ原因(二完)

講師 高田 保馬

雜錄

●經濟雜話(二)

法學博士 田 島 錦 治

●南北米經濟關係ト日支經濟關係戰後經濟問題

法學博士 神 戶 正 雄

●歐洲戰爭ト其主要ナル社會學的因素

講師 米 田 庄 太 郎

●職工扶助令ニ就テ

助教授 山 本 美 越 乃

●英國ノ食料品ト物價

助教授 河 田 嗣 郎

●獨逸ノ市統計所小觀

教授 財 部 靜 治

●まるさす生誕百五十年記念會記事

講師 本 庄 榮 治 郎

戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ト日本移民問題(二、完)

講 師 米 田 庄 太 郎

五

前號ニ於テ述ベシ如ク、歐洲戰爭開始前ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ヲ決定スル、最モ根本的ナ又重要ナル原因ハ經濟的原因デアツタ。サレバ先ヅ戰後ニ於テ同じ原因ガヤハリ最モ根本的ナ又重要ナ原因トシテ働キヲ續ケルデアラウト假定

シテ、戰後ノ歐洲移民運動ノ形勢ヲ推察スルハ敢テ不當デアルマイト信ズル。

今該經濟的原因ノ中デ、最モ重要ナルモノハ米國ニ於ケル經濟的景氣ノ良不良アルコトハ、サキニ述ベシカ如クデアルカラ、戰後ニ於テモヤハリ米國ニ於ケル經濟的景氣ノ良不良ガ歐洲移民運動ヲ決定スル最モ重要ナ經濟的原因デアラウト推察サレル。然ラバ戰後ノ米國ニ於ケル經濟的景氣ハ如何ニ成リ行クデアラウカ。併シ此問題ノ考察ニヨリテ歐洲移民運動ノ形勢ヲ推察スルニ先テ、尙ホ考究シテ置カネバナラヌ一ノ問題ガアル。夫レハ歐洲諸國ニ於ケル經濟的景氣ノ如何ヲ問ハズ、單ニ米國ニ於ケル景氣ノ如何ニヨリテノミ歐洲移民運動ノ形勢ガ決定サレルモノデアルカ、又ハ歐洲諸國ニ於ケル景氣ト米國ニ於ケル景氣トノ關係ニヨツテ決定サレルノデアアルカト云フ問題デアアル。單ニ理論上カラ考ヘテ見ルト、假令米國ガ好景氣デアツテモ、歐洲諸國モ亦好景氣デアラバ、歐洲人ハ敢テ米國ニ移住シマイ、之レニ反シテ米國ガ好景氣デアルト同時ニ、歐洲諸國カ不景氣デアル場合ニ彼等ハ始メテ米國ヘ移住スルノデアラウト推察サレル。

然ルニ實際ノ事實ニ就テ吟味シテ見ルト、歐洲ノ景氣如何ヲ問ハズ、米國カ好景氣デサヘアレバ米國ニ於ケル歐洲移民ハ大ニ増加シ、之ニ反シテ米國カ不景氣デ

アレバ大ニ減少スル傾向アルコトガ發見サレルノデアアル。サレバワートン氏ノ如キハ左ノ如クニ論ジテ居ル。現今ノ來住ハ來住者ヲ受ケル國ノ産業的繁榮ト其國ニ行ク便宜トニ依屬シ又之レニヨリテ決定サレルト云フコトハ、現今ノ來住ノ一法則デアアル。現今ノ來住ハ往住者^{エミグレーション}ヲ出ス國ニ於ケル不景氣ニハサホド關係ハナイ。何レノ國ノ往住統計モ亦米國ノ來住及ビ往住統計モ共ニ明ラカニ此ノ事實ヲ證明シテ居ル。又歐洲ヨリノ來住ニ關シテ米國ノ領事ノ送レル殆ンド總テノ報告ハ右ノ言ヲ確證シテ居ル。⁽¹⁾然ラバ戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ハ全ク或ハ主トシテ米國ニ於ケル景氣ノ如何ニヨリテノミ決定サレルト推察ス可キカ。從來ノ例ヨリ推論スレバ實際上大ニ斯カル傾向ガ現ハレルカモ知レナイ。而モ余ハ慎重ニ考究センガ爲メニ、ハウ氏ノ云ハレル如クニ⁽²⁾一方ニ於テハ戰後ノ米國ニ於ケル經濟的狀態ト、他方ニ於テハ戰後ノ歐洲ニ於ケル經濟的狀態トガ此問題ノ答解ニ於ケル主要ナル勢力デアラウ⁽²⁾ト推定シテ置キタイ。要スルニ余ハ戰後ニ於ケル米國ノ景氣ト歐洲ノ景氣トノ關係ニヨリテ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ガ根本的ニ決定サレルデアラウト推察スルハ最モ穩當ナル考察法デアラウト信ズル。然ラバ戰後ノ米國及ビ歐洲ニ於ケル經濟的狀態ハ如何ニ成リ行クデアラウカ

1) Warne, ibid. P. 217-218

2) Frederic Howe, ibid. P. 599

六

戰後ノ米國ノ經濟狀態ヲ推測スルハ決シテ容易ナ業デナイ。觀察ノ方面ノ差異ニヨツテ全ク正反對ノ推測ガ下シ得ラレル。或論者ハ戰後ノ米國ノ經濟界ニ於ケル大恐慌大不景氣ヲ豫想シテ居ル。而シテ其論據トシテ提出スル事實ヤ、又其上ニ加ヘラレタル推理ノ方法ハ必ズシモ謬ツテ居ルトハ云ハレナイ。サレド又カカル論者ノ所見トハ正反對ニ、戰後ノ米國經濟界ニ於ケル大繁榮、大好景氣ヲ暗示スルト認メラレル數多ノ徵候ヲ今日ノ狀態中ニ發見スルコトハ出來ル。今ヤ米國ハ産業的大繁榮ノ時期ニ進ミツ、アルト信ズ可キ理由モ多アル。戰後ノ不景氣ヲ豫想スル論者ノ見解ガ正シイカ、又ハ之レニ反シテ戰後ノ好景氣ヲ推測スル論者ノ見解ガ正シイカ。勿論戰後ニナツテ見ネバ斷言出來ナイ。併シ余ハ米國ノ經濟界今日ノ狀態ノ中ニ戰後ノ大繁榮好景氣ノ徵候ヲ洞察シ、戰後ノ好景氣ヲ推測スル論者ノ說ニ賛成シタイト思フ。然ラハ今日ノ米國ノ經濟狀態ニ於テ如何ナル現象ガ、戰後ノ好景氣ヲ指示スル徵候ト認メ得ラルルカ。茲ニ此問題ヲ詳細ニ論述スルコトハ紙面ノ許サナイ處デアルカラ、極簡單ニ陳述スルニ止メテ置クガ、要スルニ今ヤ米國ハ産業的大繁榮ノ時期ニ入リツツアルト信ス可キ多數ノ理由ガアル。近來

大豐年ノ續イタコトハ大ニ農民ヲ富マシメ、歐洲諸國ヨリノ漠大ナル軍需品ノ注文ハアラユル工場ヲシテ活動セシメ、賃銀ノ昂騰ハ勞働者ノ購買力ヲ増シ、金及ビ銀行預金ノ餘剩ハ新通貨條例ト相待ツテ當ニ信用ヲ安固ナラシムルノミナラズ、又之ヲ低廉ナラシメルト察セラレル。而シテ又勞働市場ニ於ケル供給不足ノ徵候ハ歴歷トシテ現ハレテ居ル。熟練勞働者ノ賃銀ハ割増ヲ附ケラレ、工業的大中心地ニ於ケル同盟罷業ノ殆ンド直ク様ノ成功ハ一方ニ於テ組織サレタル勞働者ノ強サト、他方ニ於テハ勞働使用者ノ比較的ニ弱キコトヲ指示シテ居ル。³⁾其他戰後ノ好景氣ヲ暗示スルモノトシテ余ハ數多ノ現象ヲ列擧スルコトハ出來ルガ、茲ニハ其暇ナキヲ以テ以上尤トモ重要ト思ハルモノヲ少シク示摘スルニ止メテ置ク。

今上ニ述ベシガ如キ理由ニヨリテ戰後ノ米國ニ於ケル經濟的大繁榮、好景氣ヲ豫想スルニ於テハ、之レニ基イテ戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民ノ大増加ヲ推測ス可キカ。若シ米國ノ好景氣ハ歐洲ノ經濟的狀態ノ如何ニ關セズ、歐洲移民ヲ引附ケルモノト見ルニ於テハ、余輩ハ戰後歐洲移民ノ大増加ヲ推察セザルヲ得ナイ。併シ曩ニ述ベシ如ク、余ハ單ニ米國ノ景氣如何ニヨリテノミ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ガ決定サレルト見ルヨリハ、米國ノ經濟的狀態ト歐洲ノ經濟的狀態トノ

3) Frederis Howe, ibid P. 599 參照

關係ニヨツテ決定サレルト見ルガ、一層穩當デアルト考ヘルカラ、戦後ニ於ケル米國ノ好景氣ノ豫想ヨリシテ直チニ歐洲移民ノ増加ヲ推測スルハ穩當デナク、更ニ戦後ニ於ケル歐洲ノ經濟的狀態ノ如何ヲ豫想シ、之レニ對照シテ考察セネバナラスト思フ。然ラハ戦後ノ歐洲ノ經濟狀態ハ如何ニ成リ行クデアラウカ。

七

戦後ノ歐洲ノ經濟的狀態ヲ豫想スルコトモ亦甚ダ困難デアル。恐クハ米國ニ於ケル經濟的狀態ヲ豫想スルヨリハ一層困難デアラウ。併シ目下ノ戰亂狀態ニ就テ、戦後ノ經濟的狀態ニ重大ナル影響ヲ及ボスト思ハル少クモ四種ノ現象ガ明ラカニ認メラレル。一ハ人口狀態ニ於ケル重要ナル變動ニシテ、即チ國民ノ活動階級ノ人口ガ俄カニ著シク減少シツツアルコトデアル。二ハ富ノ大破壊デアル。三ハ商業ガ突然大打撃ヲ受ケタルコトデアル。而シテ四ハ國債ノ急激ニ非常ナル膨脹ヲナシツツアルコトトデアル。

今此等四種ノ現象ガ戦後交戰國ノ經濟狀態ノ上ニ及ボス影響ノ非常ニ重大ナルコトハ疑フ可カラザル事實デアル。而シテ其ノ影響ニ就テハ全ク正反對ナル二種ノ豫想ガ立テ得ラレル。一ハ悲觀的豫想ニシテ、其ノ極端ナルモノニ至ツテハ、戦

後交戰諸國ハ非常ニ衰頹シテ再ビ起ツコトハ出來マイト考ヘテ居ル。二ハ樂觀的豫想ニシテ、其ノ極端ナルモノニアリテハ、財政上經濟上其他種々ノ方面ニ於テ非常ナル困難ニ遭遇スルニ係ラズ、交戰諸國ハヨク戰前ノ狀態ヲ恢復スルノミナラズ、更ニ一段ノ進歩ヲ遂ゲルデアラウト考ヘテ居ル。殊ニ獨逸ノ如ク平和ノ時代ニ於テ戰爭ノ準備ニ怠リナカリシ國民ハ戰爭中ニモ決シテ平和恢復後ノ産業的發展ノ準備ヲ忘レテ居ラナイカラ、如何ナル形態ニ於テ戰爭ガ終結スルニセヨ、戰後再ビ大飛躍ヲ試ミルデアラウト考ヘテ居ル。悲觀的豫想ガ當ルカ、樂觀のカ當ルカハヤハリ戰後ニナツテ見ネバ確知スルコトハ出來ナイガ、併シ余ハ悲觀論者ノ說ニ耳ヲ傾ケルヨリハ寧ロ樂觀論者ノ說ヲ認メテ、我國ノ戰後政策ノ方針ヲ立テル方ガ吾人日本國民ニトツテ一層安全ナル方法デアラウト信ズル。ソコデ余ハ茲ニ大體上樂觀論者ノ說ニ從フテ戰後ノ交戰諸國ノ經濟的狀態ヲ豫想シテ見ヤウト思フガ要スルニ彼等ハ從來ヨリモ一層大ナル發達ヲナシ得ルヤ否ヤハ暫ラク不問ニ附スルモ、少クモ先ヅ戰爭中ニ破壊セラレ傷害セラレタル經濟組織、經濟機關ノ復舊ノ爲メニ非常ナル努力ヲ試ミルデアラウト信ズル。若シ彼等ハ非常ニ衰頹シテ何等爲ス能ハザル狀態ニ陷ルト想像スルニ非ラズバ、少クモ彼等ハ熱心ニ此

ノ復舊事業ニ努力スルモノト推察セネバナラヌ。而シテ此ノ場合ニ勞働ノ大ナル需要ハ起ツテ來ルガ、戰爭中活動階級ノ人口ガ著シク減少セル結果トシテ勞働ノ供給ハ充分デナイ。斯クテ勞働市場ニ於ケル供給不充分ノ狀態ガ現ハレテ來ル。戰後ノ經濟界ニ於ケル最モ顯著ナル現象ハ復舊事業ノ勃興ト之レニ對スル勞働不充分ノ狀況デアラウカト思フ。而シテ勞働不充分ノ狀況ガ自カラ賃銀ノ上騰ヲ誘致スルハ經濟學上ノ一原則デアアル。此場合ニ若シ數代前ノ勞働者デアアルナラバ、一般ニ未婚者ハ早ク結婚シ、既婚者ハ子供ヲ殖ヤスデアラウガ、併シ今日ノ歐洲ノ勞働ハ結婚ヤ子供ノ増殖ヨリハ寧ロ生活狀態ノ改善ニ賃銀上騰ノ利益ヲ運用スルデアラウト思フ。而シテ今日ノ勞働者ノ生活狀態ノ改善ハ自カラ勞働者ノ勢力ノ増進、勞働運動ノ發達ヲ導キ、勞働者ニ有利ナル種々ノ社會政策的設備ヲ愈々増進セシメルモノデアアルコトハ疑フ可カラザル事實デアアル。此クテ勞働者ノ國外移住殊ニ海外移住ハ自カラ減少シテ來ル。

近來獨逸其他ノ先進國ニ於ケル社會政策ノ發達ガ勞働者ノ外國移住ヲ防遏セントスル政府ノ計畫ニ基因スル處少ナカラザルハ、學者ノ認メテ居ル事實デアアルガ、其効果ハ漸次ニ現ハレ、米國ニ於ケル獨逸其他ノ北歐移民ノ近來大ニ減少シ來

レル一原因ハ確カニ其等ノ諸國ニ於ケル社會政策ノ發達ニアルト思ハレル。サレバ假令目下ノ歐洲大戰亂ガ起ラナカツタトシテモ、獨逸其他ノ北歐諸國ニ於ケル社會政策ノ發達ト人口増加率ノ減少トノ結果トシテ米國ハ將來此等ノ諸國ヨリアマリ多クノ移民ヲ望ム能ハザル狀態ニアルノデアル。要スルニ何レノ國民モ母國ニ於ケル生活狀態ガ大ニ改善サルレバ敢テ母國ヲ去ツテ知ラヌ他國ニ移住セントハシナイ。サレバ戰後交戰國ニ於ケル復舊事業ノ勃興ト勞働不充分トノ結果トシテ賃銀ガ上騰シ、一般ノ生活狀態ガ大ニ改善サルレバ假令米國ノ經濟界ガ大好景氣ヲ呈スルモ歐洲人ハ敢テ母國ヲ去ツテ米國ニ移住セントハシナイデアラウ、少クモ彼等ノ米國移住ノ傾向ハ大ニ減少スルデアラウト思ハレル。

更ニ歐洲人ノ米國移住問題カラ見テ、戰後ノ歐洲ニ於ケル經濟的改善ニ就テ、大ニ注意ス可キモノガアル。先キニ述ベシ如ク近來米國ニ於ケル舊移民ノ大ニ減少セルニ反シテ非常ニ増加シ來レルハ新移民デアアル。而シテ新移民中ニテ最も多キハ露西亞、澳太利、匈牙利、伊太利等ヨリ來ルモノデアアル。然ルニ此等ノ新移民ハ猶太人ヲ除ケバ多クハ農民デアツテ、戰爭前ノ狀態ノ下ニ於テモ、米國ニ於テ多少蓄財ガ出來レバ母國ニ歸ツテ餘世ヲ安樂ニ送ラントスル傾向ガ強イノデアアル。而シテ

彼等ハ一般ニ無教育デアルカ、或ハ教育ノ程度ガ低イカラ、故郷ニ執着スル念ガ強ク、決シテ自カラ好ンデ米國ニ移住スルノデハナイ。寧ロ生活狀態ヲ改善センガ爲メニ已ヲ得ズ移住スルノデアル。且ツ彼等ニハ土地ノ所有ヲ求ムル念ガ強イ。サレバ戰後若シ母國ニ於テヤヤ安樂ニ生活ヲ營ムコトガ出來、且ツ多少ノ土地ヲ所有スルコトガ出來レバ、彼等ノ米國ニ移住セントスル念ハ大ニ減弱スルデアラウト思ハレル。而シテ戰後殊ニ露西亞、波蘭、澳大利、匈牙利等ノ最モ多クノ新移民ヲ出ス諸國ニ於テ只今述ベシ意味ニテ農民ノ經濟的改善ノ行ハレ得可キ徵候ハ今日ニ於テ既ニ現ハレテ居ル。其ハ東普魯西、波蘭、シレシア、露西亞、澳大利、匈牙利等ノ土地所有貴族ノ比較的ニ大ナル割合ガ目下ノ戰爭ニ於テ或ハ戰死シ、或ハ不具者トナリ、又彼等ノ多クハ其ノ領地ヲ荒サレテ破産セントシテ居ルコトデアル。サレバ戰後彼等ノ多クハ從來ノ如ク一種ノ封建的貴族トシテ生活標準ヲ維持スルコトハ困難トナリ殊ニ其領地ヲ從來ノ如クニ封建的ニ經營シテ行クコトハ困難トナルデアラウト思フ。而シテ其結果從來ノ封建的大領地ハ(カノ大革命後佛蘭西ニ於テ、行ハレシ如ク、又南方獨逸ニ於テしゆたいんヤはるでんべるひノ行ナヒシ如ク、又其後丁抹政府ガ行ナヒシ如ク、又英國政府カ愛蘭ニ於テ行ナヒシ如ク)幾多ノ小

農圃ニ分割サレラデアラウト思フ。又戰後獨逸、奧地利、匈牙利、露西亞等ノ政府ハ人民ノ海外移住ヲ豫防スル爲メニ農民ヲシテ容易ク其等ノ小農圃ヲ獲得セシメル種々ナル便宜ヲ圖ラデアラウト思フ。而シテ愛蘭ノ土地法ノ改良、及ビ丁抹ノ施設ガ米國ニ於ケル愛蘭移民、及ビ丁抹移民ヲ減少セシメタル一原因トナツテ居ルコトハ米國ノ移民研究者ノ一般ニ認メテ居ル事實デアルカラ、余ハ同一ノ原因ニヨリテ戰後米國ニ於ケル新移民ノ大ニ減少スルコトヲ推察シ得ルノデアアル。⁽⁴⁾

余ハ上節ニ於テ述ベシ如ク、戰後ノ米國經濟界ハ好景氣ヲ呈スララウト推察スルニ係ラズ、主トシテ只今述ベシカ如キ理由ニヨリテ戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民ハ從來トハ異ナツテ大ニ減少スララウト豫想スルノデアアル。

更ニ余ハ只今述ベシ理由ニヨリテ現ニ米國ニアル歐洲移民中戰後母國ニ歸ヘルモノハ少ナクアルマイト推察シ得ラルルト思フ。先ニモ述ベシ如ク、戰爭前ノ狀態ノ下ニアリテ新移民中ニハ多少蓄財ガ出來レハ母國ニ歸ラントスル傾向ガアル。彼等ハ米國ニアリテモ、尙ホ故郷ニ戀々トシテ居ツテ、好機會ガアラバ母國ニ歸ラントスル傾向ガアルノデアアル。然ルニ戰後上ニ述ベシガ如キ土地法ノ改良ガ行ハレ、容易ク土地ヲ手ニ入レルコトガ出來ル様ニナレバ、米國ニ於テ貯蓄セル金ヲ懷

4) Frederic Howe. *ibid.* P. 601 參照

ニシテ母國ニ歸ラントスル傾向ハ彼等ノ間ニ大ニ起ツテクルデアラウト思ハレル。又復舊事業ノ勃興ト之レニ對スル勞働不充分トノ結果トシテ賃銀ノ上騰スルコトモ彼等ノ母國ニ歸ヘラントスル傾向ヲ大ニ強メルデアラウト思ハレル。而シテ實際上此傾向ハ如何程實現サレ如何程ノ數ガ母國ニ歸ルデアラウカハ到底確實ニ推測スルコトハ出來ナイガ、併シ理論上此傾向ハ現今ノ米國人口中如何程ノ範圍マデ蔓延シ得ルカハ大體上推測スルコトハ出來ル。今米國今日ノ人口ニ付テ調ラベテ見ルニ所謂外國生レノ人口、即チ外國デ生レテ米國ニ移住シ來レル人ハ千三百萬人ニ達シテ居ル。又外國生レノ親ヨリ生レタル小供ノ數ハ千八百萬人ニ達シテ居ル。サレバ米國ニ住居シナカラ母國ヲ懷フ念ノ失セナイ人間ハ千三百万人ホドアリ更ニ親ノ母國ニ對シテ多少ノ愛着心ヲ有スル人間ハ千八百萬人ホドアルト做スコトガ出來ル。而シテ此等ノ兩者ヲ合計スレバ米國人口全體ノ三分ノ一ニ達スルノデアアル。又此等ノ外國生レノ人口及ビ外國生レノ親ヨリ生レタル人口ノ大部分ハ云フマデモナク歐洲人デアルカラ、戰後歐洲ハ經濟的状態ノ改善ニヨリテ今日ノ米國人口中ニ歐洲ヘ歸ヘラントスル傾向ノ發達シ得ル範圍ハ甚ダ大ナルモノデアアル。

以上述べシ理由ニヨリテ余ハ戰後米國へ移住シ來ル歐洲人ノ數ハ大ニ減少スルノミナラズ、現ニ米國ニ移住シテ居ル歐洲人中母國ニ歸ヘル者モ少ナクアルマイト思フ。サレバ戰後米國ノ經濟界ハ好景氣狀態ヲ呈スルト推察サレルニ拘ラズ、米國ニ於ケル歐洲労働者ノ數ハ大ニ減少スルデアラウト信ズルノデアル。而シテ今此ノ如ク戰後ノ米國ニ於テ、一方經濟界ガ好景氣ヲ呈スルニ對シテ、他方歐洲移民ガ減少スルニ當テハ、米國ハ労働不足ノ狀態ニ陷ル可キコトハ、サキニ述ベシ歐洲戰爭開始後ノ狀態ヨリ見テ明ラカニ推察サレルノデアル。然ラバ此場合米國ハ如何ニシテ労働ノ不足ヲ補ナフコトガ出來ルカト云フニ、之レガ爲メニハ亞細亞移民ノ排斥或ハ制限ヲ停止スルヨリ外ニ途ハアルマイト思フ。而モ從來ノ行掛ヤ労働者ノ反對等ニヨリテ直チニ亞細亞移民ノ排斥又ハ制限ヲ全廢スルコトハ出來マイ。又無差別的ニ亞細亞移民ノ排斥又ハ制限ヲ全廢スルコトハ賢明ナル政策トハ思ハレナイ。是ニ於テカ亞細亞移民中歐洲移民ニ劣ラヌ價值ヲ有スルモノト然ラザルモノトヲ辨別シ、先ヅ前者ノ制限ヲ緩メルト云フ方針ヲ採ルニ至ルデアラウト推察サレル。而シテ亞細亞移民中歐洲移民ニ劣ラヌ價值ヲ有スルモノト云ヘハ恐ラクハ日本移民ノ外ニアルマイ。此クテ日本移民ノ制限ハ自カラ緩メラレ

來ルデアラウト思フ。

八

却説余ハ以上述べシ如ク一方戦後ノ米國經濟界ノ好景氣ト、他方歐洲ニ於ケル少クモ復舊事業ノ勃興及ビ勞働ノ大需要トヲ豫想シテ、戦後ノ米國ニ於ケル歐洲移民ノ減少ヲ推測シ、而シテ其ノ結果米國ガ勞働ノ不足ヲ補フ必要上自カラ日本移民ノ制限ヲ緩メザルヲ得ザル狀態ニ立チ至ルデアラウト推察スルノデアルカ、然ルニ他ノ方面ヨリ見テ戦後米國ノ經濟界ノ景氣如何ニ係ラズ歐洲移民ハ大ニ増加スルデアラウト云フ推測モ立テ得ラレナイコトハナイ。而シテ斯カル推測ノ根據トナシ得ラルルモノハ種々アルカ、其ノ最モ主要ナルモノヲ擧グレバ、先ヅ第一ニ注目セラルルハ、戦後歐洲諸國ハ財政ノ整理及ビ復舊事業ノ爲メニ租稅額及ビ租稅ノ種類ヲ大ニ増加スルデアラウト云フ事デアアル。次ニ注目セラルルハ、戦後歐洲諸國ニ於テ軍國主義ハ益々勢力ヲ振フデアラウガ之レニ反シテ一般ノ人民間ニ軍國主義ヲ嫌忌スル念ガ大ニ發達スルカモ知レナイト思ハル事デアアル。而シテ其結果歐洲諸國ノ人民ハ或ハ重稅ノ負擔ニ堪ヘカネ、或ハ軍國主義ヲ大ニ嫌忌シテ續々米國ニ移住スルデアラウト推察シ得ラレルノデアアル。

今戰後歐洲諸國ニ於テ租稅額及ビ種類ガ大ニ増加スルデアラウト云フコトハ殆ンド疑フ可カラザル事實ト認メ得ラレル。併シ軍國主義ガ大ニ勢力ヲ振ヒ、又之レニ反シテ人民ガ一般ニ大ニ之ヲ嫌忌スルデアラウト云フ豫想ハアマリ確實トハ思ハレナイ。サレド今此豫想ヲモ假リニ確實ト認メ、而シテ戰後歐洲諸國ノ人民間ニ或ハ重稅ノ負擔ニ堪ヘカネ、或ハ軍國主義ヲ大ニ嫌忌シテ續々米國ニ移住スル傾向ガ現ハレテ來ルト推察スルモ、茲ニ問題トナルハ歐洲諸國ノ政府ハ果シテ其ノ移住ヲ許可スルデアラウカト云フコトデアル。余ハ戰後若シカカル傾向ガ現ハルルニ於テハ、歐洲諸國ハ自衛上斷然其ノ人民ノ外國移住ヲ禁止スルデアラウト思ウ。サレバ假令戰後カカル傾向ノ起ルコトハ可能デアルトシテモ、其レガ爲メニ米國ニ於ケル歐洲移民ハ増加スルコトハアルマイト信ンズル。隨フテ米國ハヤハリ勞働ノ不足ニ苦シミ、結局少クモ日本移民ノ制度ヲ緩メザルヲ得ナイデアラウト考ヘル。

九

余輩ハ尙ホ他ノ意味ニ於テ戰後米國ニ於ケル歐洲移民ノ増加ヲ想像シ得ル。夫レハ戰死者ノ遺族ニシテ母國ニ於テ生活ニ困難スルモノガ、米國ニアル親族又ハ

友人ヲ頼ツテ移住シ來ルコトデアル。戰爭前ニアリテモ歐洲移民ノ八割程ハ既ニ米國ニアル親族友人ニ助ケラレテ來住スルモノデアルト云ハレテ居ル。サレバ戰後只今述ベシガ如キ狀態ニアル者が親族友人ヲ頼ツテ又ハ之レニ助ケラレテ續續米國ニ來住スルカモ知レナイ。而シテ目下ノ戰爭ニヨリテ寡婦トナル者孤兒トナル者又ハ扶助者ヲ失ナフ老人等ノ數ハ幾百萬人ノ多キニ達スルカモ知レナイト思ハレルカラ、戰後此種ノ歐洲移民ハ大ニ増加スルカモ知レナイ。併シ此種ノ移民ガ如何ニ多數デアツテモ、米國ハ之レニヨツテ勞働ノ不足ヲ補ナフコトハ出來ナイ。否ナ此種ノ移民ノ集注ハ米國ニ取ツテ甚ダ不利益デアル。サレバ米國ハ此ノ種ノ移民ニ對シテハ嚴重ナル制限ヲ加ヘルカモ知レナイ。否ナ確カニ加ヘルデアラウ。

十

要スニ余ハ何レノ方面ヨリ考察スルモ戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民ハ大ニ減少シ、同國ノ經濟的發展カ要求スルダケノ勞働分量ヲ供給スルコトハ出來マイト信ズル。而シテ其ノ結果トシテ米國ハ先ヅ少クモ日本移民ノ制限ヲ緩メナケレバナラナイ狀態ニ立至ルト推察スルノデアアル。此クテ日米間ノ移民問題ハ平和的ニ解決シ得ラルルコトトナルノデハアルマイカ。勿論吾吾日本人ニトツテ満足ナル

解決ヲ得ル迄ニハ幾多ノ迂餘曲折ヲ經ナケレバナルマイ。又大ニ我國ノ外交官ノ手腕ヲ要スルデアラウト思フ。更ニ米國ノ識者ヤ資本家がヨク右ノ事情ヲ意識シテ日本移民ヲ歡迎セントシテモ、労働者ハ大ニ之レニ反抗スルカモ知レナイ。本年一月二十日ノ大阪朝日新聞ニ「米國移民制限運動」ト題シテ左ノ如キ桑港特電ガ掲載サレテ居ツタ。

「米國労働協會ハ疊ニ大統領ウいるそん氏ニ否認サレタル移民修正案ヲ本回ノ議會ニ於テ通過セシメント議員間ヲ説キマハリ居レルガ、コレ目下米國內ニ二百萬ノ労働者が無職ニ苦シミ居レルニヨリ歐洲戦亂後多數ノ歐洲移民ノ渡米スルヲ恐ルルカ爲ナリ。」

右ノ電報ノ傳フル事ハ何等日本移民問題ニ關係シテ居ラナイ様デアルガ、併シ余輩ハ之レニヨツテ戦後日本移民ノ制限ヲ緩メントスル意見ガ米國ノ識者間ニ現ハルルニ當テモ労働者ハ如何ナル態度ヲトルデアラウカヲ察スルコトガ出來ル目下米國內ニ二百萬ノ労働者が無職ニ苦ンデ居ルト云フコトハ余ハ種々ナル方面ヨリ考察シテ事實トハ思ハヌ。又戦後多數ノ歐洲移民ガ渡米スルデアラウト云フ豫想ハ余ノ上ニ論述セシ處ニヨリテ正當ナ豫想デナイト思フ。併シ其等ノ事柄ガ事實デアルヤ否ヤ、又ハ正當ナル豫想デアルヤ否ヤハ米國ノ労働者ノ運動ニトツテハサホド重要ナ事デハナイ。彼等ハ何等カノ口實ヲ設ケテ外國移民ヲ制限シ

勞働不足ノ狀態ヲ導イテ何處マデモ賃銀ノ上騰ヲ圖ラントシテ居ルノデアアル。サレバ戰後日本移民ノ制限ヲ緩メントスル議論ノ起ルニ當テモ彼等ハ大ニ之レニ反對スルカモ知レナイ。併シ經濟界ノ必然ノ勢ニハ如何ニ勢力強大ナル米國勞働者モ遂ニハ屈服シナケレバナルマイト思フ。

以上戰後ノ米國ニ於ケル歐洲移民運動ノ形勢ト日米移民問題ノ解決トノ關係ニ付テ余ノ縷縷陳述セルコトハ單ニ余ノ空想ニ過ギナイカモ知レナイ。併シ余ハ其ノ單ニ空想ニ止マラザランコトヲ切望スルノデアアル。

終リニ余ハ少シク附言シテ置キタイ事ガアル。以上述ベシ愚見ハ米國ニ於ケル排日運動ノ根本的原因ハ經濟的性質ノモノト見ル米國識者間ノ意見ヲ基礎トシテ立テタルモノデアアル。サレバ若シ排日運動ノ根本原因ガ經濟的性質ノモノデナクシテ人種の偏見トカ人種の嫌惡トカ異人種排斥ノ感情トカ云フガ如キモノデアル場合ニハ愚見ノ如ク戰後歐洲移民ガ大ニ減少シ、勞働不足ノ狀態ガ起ツテモ排日運動ハ尙ホ止マナイデアラウ。而モ經濟的壓迫ニヨリテ大ニ或ハ少クモ幾分か減弱スルデアラウト思フ。而シテ其機ニ乘シテ適當ナル啓發運動ヲ行ヘバ米國人ノ日本人ニ對スル人種の偏見或ハ嫌惡心ヲ大ニ除キ去ルコトガ出來ヤウト信ズル、併シ此點ニ就テハ他日稿ヲ改メテ論ンズルコトトスル。(完結、一月二十三日)